

「心に響く道徳」の授業実践

道徳 学年2 学年

白山市立北辰中学校・教諭

1 事例の概要

発達段階とはいえ、他人を平気で傷つけてしまったり、生命を軽視するような言動をとる生徒、親に対して暴言を吐いてしまう生徒の姿を見るたびに、「命はかけがえのない大切なもの」「親の無償の愛」をどれだけ感じているのだろうか、考えてしまうところがある。まして、最近の報道を見ると、暴力や虐待、重過失で子どものみならず人の命を奪う事件が後を絶たない。

そこで、この時期だからこそ生命の尊厳に気づかせるとともに、多くの人たちの愛に育まれて生きているということを深く、じっくりと考えさせたいと思い、2時間のプログラムを組んだ実践である。

2 実践内容

(1) 主題設定の理由

私たちは平穏な生活を送っているとき、生命の尊さや生きることのすばらしさを実感することは少ない。また、これまでに多くの愛情を受けて、ここまで育ってきていることを感じることも少ない。それに加えて、「生命の大切さ」を訴える情報番組もあるものの、暴力や虐待、重過失で人の命が奪われてしまう報道は毎日のように流れている。このような中、生徒の言動を見るにつけ、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」道徳性を育てなければならないとつくづく感じてしまう。もちろん、受けてきた愛情や生徒自身の経験、積み重ねによって個人差もある。そこで、「命はかけがえのない大切なものだ」ということを時事問題を通して考え、さらに「自分が育てる立場になったらどうか」「自分はどのような生き方をしていくか」と深く考えることを通して、生命に対する畏敬の念を深化させるとともに、自己を見つめ、他を認めながらよりよい関わり方を実践する力を育てたいと考え、この主題を設定した。

(2) 指導上の工夫点

①複数時間（2時間）による設定

1次 ドイツでかなり普及し、最近日本でも話題となった「赤ちゃんポスト」を取り上げ、「赤ちゃんポスト」について互いの意見交流を通し、単にその是非を語るのではなく、「ポスト」が必要となった社会の問題点に気づかせたり、人の命の重さを再認識し、家族としてどのように子供を考えるべきなのか、「幸せ」に生きることとはどういうことなのかというところまで考えを深めさせたい。

2次 1次での話し合いを振り返るとともに、ゲストティーチャーとして地域在住の生命誕生に携わる助産師さんや本校卒業生で子育て奮闘中の新米ママを招き、直接話を聞いたりと、実際に赤ちゃんを抱かせていただく場を設定する。

②ワークシートの工夫

1次の「赤ちゃんポスト」に関しては、是か非の二者択一とはならない問題である。そこで、ワークシートに数直線をつくり、どの程度設置に賛成かあるいは反対なのか、自分の考えを持ちやすいようにした。

3 指導の実際

| 過程 | 学習活動 | 発問等と予想される反応 | ・支援 ◎評価(方法) |
|-------------|--|--|--|
| 考 え る | 2. 資料を読み、赤ちゃんポスト設置に賛成か反対か自分の立場と理由を書く。 | ○あなたは赤ちゃんポストの設置に賛成ですか、反対ですか。 | ・「赤ちゃんポスト」の資料を配り、教師が範読する。 ・自分の考えを書き記すワークシートを準備する。 |
| | 3. 黒板の数直線上にネームプレートを置くことで自分の立場を示す。 4. 意見を発表する。 | 「命は助かるから安心だ」 「子供にも生きる権利がある」 「命を救うには仕方がない」 「簡単に捨てる人が増えるから設置すべきでない」 「命は物じゃない」 「身勝手な親が増える」 | ・賛成、反対のいずれでも、どの程度賛成なのかを数直線上で確認できるようにする。 ・100%賛成(反対)やほぼ賛成(反対)だが、100%とは言い切れない理由(根拠)を聞き取るよう心がける。 |

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

① 複数時間（2時間）による設定

1次で扱った「赤ちゃんポスト」は、これが正しいという答があるわけではない。賛成であれ、反対であれ、生命を大切にしなければならないという思いは生徒の発言や授業後の感想等から十分に感じ取れるものであった。そして、2次として助産師さんや新米ママのゲストティーチャーとの交流に十分時間をかけ、赤ちゃんをその手で抱かせてもらう体験を通して、生命尊重の意識の高まりとともに、これまで育ててもらった家族や多くの方々の愛に気づき、感謝の思いを綴った生徒もいた。

② ワークシートの工夫

数直線を用いたことにより、「初めに持った意見」と「他の意見を聞いたり考えが深まったあとでの意見」を比較しやすかったようである。また、ワークシートの自己評価欄は、1時間の授業を通して自分がどれだけ共感できたか、感動できたか、また、自己を振り返ったり、新たな発見の機会となった。

(2) 課題

- ・ゲストティーチャーの活用は大変有効であるが、授業者の思いをしっかりと伝えておかないとならないと感じた。そのためには、十分な打合せをしておく必要がある。
- ・複数時間の設定や、ゲストティーチャーの活用は、思いつきで実施するのではなく、年間計画や中・長期計画の中に意図的に盛り込むことにより、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等と絡めた横断的な学習が可能となる。
- ・時事問題を資料として取り上げる際には、資料の提示に十分配慮する必要がある。

D-1 生徒感想